



**機関研究「布と人間の人類学的研究」  
国際ワークショップ  
捨てるもの、捨てられないもの  
——布の履歴からモノの消費を  
考える**

日時：2012年2月7日(火) 10:00～16:40  
2012年2月8日(水) 10:00～15:40  
場所：国立民族学博物館(第4セミナー室)  
主催：国立民族学博物館  
企画：関本照夫(国立民族学博物館)

世界には巨大な中古衣料や布の市場があり、そこでは一旦古くて無価値とされたものに別の価値が生まれる。一部の伝統染織品のように、古なるにつれ価値を増していくものもある。

市場に流れる中古衣料は均一ではなく、値の安さで評価されたり、古さ自体が価値となったりする。ブランド品を安価に模倣したコピー商品や、新品に見せかける模倣もあれば、逆に新品を古いモノに見せかける加工もある。

本国際ワークショップには、中古衣料や伝統染織を研究する国内外の人類学者と社会経済史学者とが集った。そして、新しい布製品と古い布製品の対比から、モノの力、



モノの消費について議論が展開され、多様な商品と消費の形を一望に収めることができた。民博の機関研究「マテリアリティの人間学」の重要な成果と言える。

**機関研究「モノの崇拜—所有・収集・表象  
研究の新展開」  
国際シンポジウム  
アフリカを展示する  
——ミュージアムにおける文化  
の表象・再考——**

日時：2012年2月17日(金)～2月18日(土)  
場所：国立民族学博物館 第4セミナー室  
主催：国立民族学博物館  
企画：吉田憲司(国立民族学博物館)



国立民族学博物館では、2008年度から本館展示の全面的な刷新にとりかかり、2009年3月、その先頭を切って、新しいアフリカ展示場、西アジア展示場をオープンした。アフリカ展示については、2000年以来、アフリカの8カ国の研究者・博物館関係者をはじめ、内外の研究者をアドバイザーとして迎え、共同で展示の実現に当たってきた。

本国際シンポジウムでは、この展示の実現に寄与していただいた研究者をあらためて民博に招き、新しいアフリカ展示を評価していただくとともに、その作業を通じて

博物館における文化の表象について、より豊かで創造的なありかたについて議論した。

この議論のなかから、博物館という装置の新たな可能性が浮かびあがってきた。

**機関研究「ケアと育みの人類学」  
国際シンポジウム  
エイジング  
——多彩な文化を生きる**

日時：2012年2月25日(土) 13:00～17:00  
2012年2月26日(日) 9:30～17:00  
場所：2012年2月25日(土)  
国立民族学博物館講堂  
2012年2月26日(日)  
国立民族学博物館第4セミナー室  
主催：国立民族学博物館  
協力：The Primary Care Research Unit at Monash University(オーストラリア)  
The Healthy Ageing Research Unit at Monash University(オーストラリア)  
後援：東北福祉大学 日本文化人類学会  
多文化関係学会 河北新報社  
企画：鈴木七美(国立民族学博物館)

高齢化や人々の移動により文化や価値観の多元化が進行する社会で、人々は何を拠り所として時空間を共有し、文化を伝達してゆけるのか。機関研究「ケアと育みの人類学」は、ライフコースにおける諸課題に因應するために紡がれてきた多様な文化に焦点をあてることにより、共生の諸要素を明らかにすることが目的である。

本シンポジウムでは、「文化多元社会における高齢者のウェルビーイング」、「高齢者のウェルビーイング追求から生活の場の共有へ」、「災害地における生活変動と高齢者ケアの展開」と題した3つのセッションがもうけられた。国内外から様々な分野の専門家が集まり、多文化状況や生活の激変を経験する高齢者のウェルビーイングを考えることをとおして、多様な文化的価値観・文化資源の共有に向けた具体的実践について議論が行われた。そこでは地域生活者が共生環境を創出する意義と方途を明示することができた。

